

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議やユニット会議の場で共有するだけでなく、事務所・休憩室に掲示し、実践するように心がけています。	事業所理念、ユニット毎の理念を職員同士で検討し作成されています。また、毎月の会議の場で確認するほか、全職員のパスケースに理念を常に携帯し、理念を意識したケアに繋げるよう努めています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会員の方による「書道教室」を毎月一回開催しています。又、職員と共に買物に出掛けるなど交流しています。	近隣の保育園の園児に来ていただき、歌と踊りを披露してもらったり、琴や踊りのボランティアの方にも来ていただいています。また、地域の方による書道教室を開くなど地域との繋がりを持つようにしています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成22年11月20日に施設見学会と福祉機器展示相談会を開催しました。自治会員や民生委員を通じて案内し、来場者に認知症の人の理解や支援の方法等の説明を行いました。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の施設での生活を報告し、ご家族からの要望や意見をいただき、それらを活かしたサービスの向上に努めています。	2ヶ月に1回定期的開催しており、自治会長・民生委員・包括支援センター職員・他のGH管理者などに参加していただき、行事活動の報告や個別支援の状況を報告・相談しています。また、ご利用者・ご家族は毎回交代して参加していただくことで、多くのご利用者・ご家族と情報を共有できるようにしています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当(包括支援センター)や地域と連携し情報交換を行い、より質の高いサービスを提供するよう努めています。	包括支援センター職員には運営推進会議に参加していただいているほか、随時情報交換を行うなど連携しています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する社内研修を実施し、介護基準における禁止の対象となる「具体的な行為」を正しく理解し、身体拘束をしない介護に取り組んでいます。	法人で身体拘束に関する研修をデイサービス・ショートステイと一緒に実施し、身体拘束は原則行わないこと、万が一のときは条件、記録、ご家族への説明、具体的な行為の説明、弊害等を説明し行うことにし、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の社内研修を実施し、正しく理解した上で、虐待の見過ごし・防止に努めています。	身体拘束の研修と一緒に虐待についても研修を行っています。ヒヤリハット等にも意識を向け、職員の言葉の使い方についても抑制にならないよう管理者が気付いた時に指導しています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施していません。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が担当し、入居前の訪問や施設見学の際によく説明し、ご利用者・ご家族の不安解消に努めています。今後も、丁寧な説明を行い理解・納得を図っていきます。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の利用者との会話、面会やカンファレンスでの意見・要望に耳を傾け、又、苦情受付箱・意見受付箱を設置し、気軽に伝えられるようにしています。そしてこれらの情報を職員で共有し、改善やサービスの向上を行っています。	日頃の会話や面会時に意見・要望を確認しているほか、敬老会にはご家族にも参加していただきご家族同士が話し合える機会も設けています。頂いた意見は毎月の会議で検討し対応できるよう努めています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、職員会議・ユニット会議、他にも、直接職員から意見や提案を聞き、必要と考えられる事は検討し、改善に努めています。	「意見ノート」にて職員から日頃気付いたことなどを記入してもらい、会議にて検討しています。毎日の申し送りや月に1回の職員会議・ユニット会議の場、更に個人面談を設けるなどして意見を反映できるよう努めています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回職員の能力向上計画書及び職務・情意等の自己評価表提出により、本人の意見希望を確認し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月業務改善会議(職員会議)と社内研修を実施しています。又、「外部研修受講について」を定め、個々の希望・職務・能力に応じた研修に出席出来るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実施していません。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の計画書を確認し、日頃のコミュニケーションを通じて、要望に耳を傾け、不安なく過ごしていただけるよう努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	スタッフは面会時や電話等で利用者の施設内の様子を報告し、家族との関係づくりに努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主に管理者が初期対応の見極めと支援を行っています。スタッフは、常に利用者や家族が必要としている事柄を見極め、その対応に努めています。他のサービスの利用は、希望も含めて今のところありません。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に料理をはじめとする家事仕事を行うことで、楽しみを感じていただけるよう努めています。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月行事日や外出の記録等の写真を取り入れ、利用者の一言や担当より生活の様子を具体的に記載した情報(広報誌)を送付しています。	前回の課題であった広報誌の作成についても毎月作成し、ご家族に送付しているほか、ご利用者によっては広報のコメント欄に自分でコメントを記入しご家族に送付している方もおり、定期的にご家族と情報共有できるようにしています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた方が、ゆっくり過ごしていただけるよう、談話スペースを設けてあります。1Fがレストランになっているので、利用者と一緒に食事をされたりしています。	新潟駅に近いので面会に来やすい環境であり、近隣の方の面会もよく来ていただいています。個別外出支援で図書館やレストランへ行ったりし、これまでの関係が継続できるように支援しています。	広報で職員異動についての掲載やホームに職員紹介の掲示コーナーを設けるなどし、ご家族にも職員の状況が分かりやすいように検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、レクリエーションや会話の話題提供をすることで、利用者同士関わりを持っていただき、利用者同士支え合えるように支援をしています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族の経過をフォローし、相談や支援が必要なサービス利用(契約)終了者がまだいませんが、契約が終了しても、必要に応じて相談や支援を続けていければと考えています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに沿って、ケアを行っています。行えない場合は段階的に行えるように、一人ひとりにあったケアを考え実践しています。	センター方式への移行を検討しており、ご本人・ご家族の希望や意向、習慣の把握に努め、希望に添った生活や関わりが出来るよう努めています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや日常会話等で利用者の情報を把握し、その人に合った支援が出来るよう努めています。	日々のご利用者とのやりとりやご家族の協力を得て、これまでの暮らしの把握に努めています。また、ホームでの生活の中で発見した内容をケース記録に記録し、職員同士で共有するように努めています。	ホーム入居時のフェイスシートの作成がされておりませんので、様式の検討も含め、フェイスシートの作成をされることを期待します。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録記入、特変事項があれば口頭とケース記録を参照し、職員間で情報を共有しています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と担当者が現在の状況を確認し、課題や家族の意見を反映し、必要なケアの作成に努めています。	サービス担当者会議を6ヶ月に1回開催しており、ご本人・ご家族の希望や意向を踏まえ、職員で話し合い介護計画を作成しています。	介護計画の目標とサービス実施表の課題との連動がされておりませんので、様式の見直しをされることを期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現状から更に行える事を増やすべきなのか、それとも減らすべきなのかを職員間で情報共有し、介護計画に反映しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の方へ行事や施設内の様子等を広報誌に載せ送付し、ご家族が参加出来るよう交流の場を設けています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新潟駅南のマンション街という特殊な状況から、地域とのかかわりは、当マンションの自治会や住人・民生委員に限られています。自治会長は運営推進会議への参加があり、住人方の書道教室が行われています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連絡を行い、何か変更があれば確認しています。急な体調不良等にも対応できるようにしています。	受診支援は基本的にはご家族にお願いしておりますが、状況によっては職員が同行することもあります。同じ建物の1階に内科皮膚科クリニックがあり、ここはホームの協力医療機関であり、且つ、大多数の方がかかりつけ医としていただきますので、良好な関係が構築され、適切な医療を受けられる環境にあります。	受診の際に職員からご家族へ医師に確認する内容を口頭で伝えておりますが、間違いを防ぐ為にも書式にて伝えるようにされることを期待します。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム職員に看護職は居ないため、必要時にはショートステイやデイサービスの看護職員、又、緊急時には協力医療機関に相談し、指示を仰いでいますが、日々の情報は殆ど伝えられていません。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、当方から必要に応じて看護・介護サマリーの提供はしていますが、病院から希望はありません。そのため関わりは薄く、情報も乏しいのが現状です。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は該当される方が居ない為行っていません。	重度化しホームでの共同生活が困難になった場合は、連携・支援する医療機関や関連施設へ移れるように契約時に説明をしております。	事業所としての重度化した際の対応の方針をまとめられるよう、職員と検討の機会を設けられることを期待します。
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	21年5月に新潟市中央消防署に依頼し、救急救命研修を実施しました。参加出来なかった職員は直接受講させました。又、社内研修で「緊急対応マニュアル」を実施しています。	事業所でも研修にて救急対応のフローを確認する機会を設け、職員が適切な対応ができるように指導しています。	今年度は救急救命研修の実施がされていませんでした。毎年定期的の実施されるように検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マンション合同の消防訓練に職員は参加しています。又、「緊急対応マニュアル」の社内研修も定期的実施しています。2月に利用者も参加した避難訓練を実施しました。	ご利用者にも参加していただき、日中の火災を想定した避難訓練を実施しており、マンションの消防訓練にも職員が参加しています。	今後は夜間を想定した訓練の実施や非常用の食品の準備もされることを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を把握し、その人に合った対応をするように心掛け、声かけを行っています。	業務マニュアルの他、個人情報保護に対する基本方針・個人情報保護規定を定め、社内研修を行い周知徹底を図っています。更に、広報に掲載する写真の掲載についても同意を得るなどプライバシーの確保の徹底に努めています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらの提案・意見を押し付けないような声かけを行い、意思決定が出来るようにしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや思いを大切に、その人らしい生活が出来るように支援をしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を保ち、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援しています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に体調などを考慮し、料理の下ごしらえ・味付け・片付けを行ってもらっています。	ご利用者に料理の下ごしらえをしてもらったり、後片付けにも手伝ってもらっています。また、1階にあるレストランで食事をしたり、外食の機会を設けるなどしてご利用者に食事を楽しんでもらえるように努めています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の管理、体調などに応じた調理方法を行い、一日を通じて栄養が確保できるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが一人で出来ない方には職員が介助し行っています。又、週に一回は歯ブラシ・コップを薬用洗浄液に就けて消毒を行っています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には定期的な声掛け・トイレ誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っています。	排泄チェック表をつけて、ご利用者のパターンを職員が共有出来るようにしており、プライバシーに配慮しながら声掛けをし、トイレ誘導・案内しています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で確認し、水分補給や、また水分を摂りたがらない方には食事やおやつに果物・ヨーグルト・寒天などを使い工夫して予防に取り組んでいます。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定は決まっていますが、体調や希望に応じ個々にそった支援をしています。	原則1日3人の方の入浴が出来るよう支援しています。入浴を嫌がる方にも職員がタイミングを見計らい声かけを行い入浴していただけるよう支援しています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを考慮し、声かけや夜間のトイレ誘導を行い、安眠していただける場を作るよう心がけています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	同じ建物内の調剤薬局の薬剤師と連携し、複数の医療機関の処方箋による副作用等について確認や助言を頂きながら、症状の変化の確認にも努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の楽しみや喜びを理解し、時には全員で歌を歌ったり、個々で楽しみ事をして頂いたり、又、食材の買い出しに同行して頂き気分転換を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添った外出は出来ていませんが、行事や天気の良い日には皆で散歩したり、ドライブしたりして、少しでも戸外に出かけられるよう支援しています。	季節に応じてお花見や花火を見に出かけたり、個別外出の月を設けて、ご利用者の希望に応じて図書館や外食に出かけるなどの外出支援を行っています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時の決め事で、お金の所持を含め、お金の管理は行っていません。必要な場合は立替し対応しています。日用品で必要なものはないかお聞きし、一緒に買い物に行き支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、支援しています。又、毎月出している広報誌に書ける方には家族へのメッセージなど書いていただいています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ季節感が出るような飾りを置くななどの工夫や、生活感を取り入れ家庭的な安らげる空間を作るよう工夫しています。	お花を飾ったり、季節物(正月飾り、節分、雛人形、七夕飾り、クリスマス等)・新聞・雑誌を用意し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしています。行事の写真やご利用者の作品、習字の飾りつけもしています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファ・テーブル・椅子・行事で撮った写真のアルバムを置き、気の合った利用者同士で過ごせるよう工夫しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込まれたり、写真を飾ったりされ、利用者の居心地が良いように職員と一緒に整理整頓しています。	ご自宅より自分の家具や食器などを持ってきていただき使用して居られます。欲しいものがある場合は、ご家族に連絡し揃えていただけるよう支援しています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用空間の整理・整頓・清潔を心がけ、利用者の出来る事は職員の見守りのもと、安全に配慮し手伝って頂いたりしています。		